《自分の身は自分で守る。災害食などをそろえると防災への考え方が変わります。はんぶん米は5年の賞味期限ですが、3年目あたりに家族で食べて防災意識を高めるのもｇｏｏｄ。》

《7月で中越沖地震から1年。中村先生と地震後被災地に入り、福祉避難所で支援の菓子パン、お菓子などが子供たちに配布され、好きなだけ食べているのには驚きました。》

有限会社エコ・ライス新潟
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL:0258-66-0070　FAX:0258-66-0447

クイーン倶楽部だより 8月号

燃料費・資材費高騰に負けない
有用資源利用肥料会議開催！

新潟県の清流「三面川」に遡上する鮭を活用し、エコ・ライスグループ内で肥料を自家製造する講習会を行いました。
原材料の高騰と身近な有用資源を活用する試みで、今年の11～12月にとれた鮭を利用し試作。来年度、一部の田んぼで活用する予定です。

新潟県健康ビジネス連峰「三つ星ビジネスモデル」に選定されました

県が推進する健康ビジネス連峰で、中越大地震から開発が始まり地域資源を生かした「はんぶん米」が選定されました。

詳しくは http://www.pref.niigata.lg.jp/sangyosinko/1214938904366.html

Dr中村の お米の話

中村 信也(なかむら のぶや)
医学博士。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者として活躍中。

第20回 「中干し」教育が必要だ！

「中干し」が解る方は稲作のプロです。私も稲作で夏に水断ちが必要なことは知っていましたが、この語は知りませんでした。中干しは、稲が成長する途中に、故意に一定期間水の供給を止めることです。何故、中干しをするのかといえば、稲を強くさせるためです。

稲は、人様により手塩にかけて育てられます。稲の少年時代は水たっぷりで、暖かい日差しの下にぬるま湯に浸りながらすくすくと育ってゆきます。背丈が伸び、稲株も増やして(分げつ)ゆきます。

ところが、ある日を境に水の供給が途切れるようになります(間断)。稲は世の中の厳しさを自覚し、根を張りだします。そのうちに完全に干し上がってしまいます(中干し)。ここで、稲は死というものを認識し、穂をつかせようとします。かくして、稲が完全に自覚しきった頃に水を与えます。やがて頃合いをみて収穫に向けて間断してゆきます。

中干しは人間形成にも不可欠です。若い頃の失敗や苦難が打たれ強い辛抱のできる人柄を形成してくれます。最近、気分がむしゃくしゃして誰でもいいからとナイフで刺す事件が連発していますが、加害者には成長の途中に中干しがなかったのが原因といえます。彼らには、三十歳代、定職がない、友人がいない、親べったりなどの共通点が見られますが、中干し欠如を物語っています。

少年から成人になるときに甘やかされ叱られる経験がなければ社会のなかの自分という自覚が生まれません。彼らは中干ししてもらえなかった被害者なのです。昔は徴兵制度というのがあり、相当に中干ししてもらえましたが、現在は家庭でも学校でもやってくれません。社会にでる前に中干し教育が必要だと私は信じています。日本の食料自給率を上げるために「徴農制度」を唱える方がいらっしゃいますが、それも一考に値します。

《東京の51市区町村に一斉にはんぶん米が導入にビックリ。それだけ高齢化社会対応の備えは緊急性が高い問題です。》